

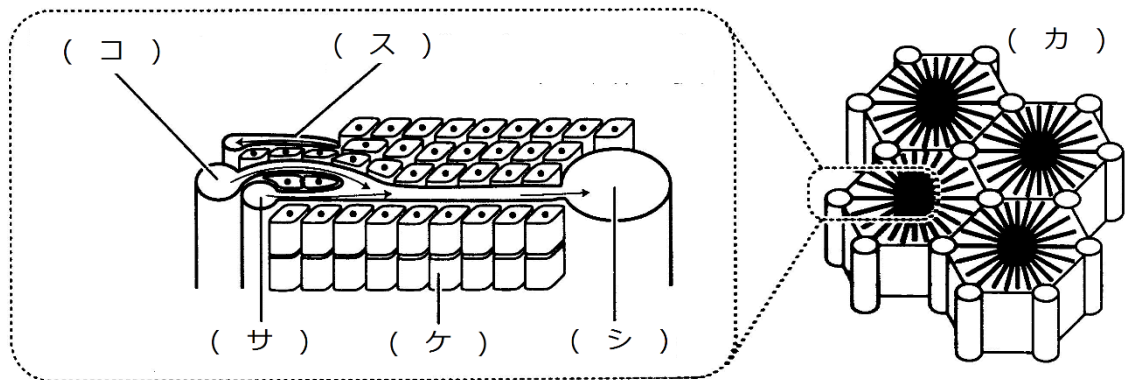
復習シート ハイレベル生物① 2学期 5回目

第25問 2学期 肝臓(その1)

問 肝臓の構造を説明した文章・図中の空欄(ア～ス)に適する語句・数値を入れよ。

肝臓は、ヒトでは体重の(ア)%を占める、消化器官中で最大の器官である。その肝臓には、肝臓に酸素を供給する(イ)、消化管や(ウ)から出た静脈が合流した(エ)が入り込み、また(オ)が出ていく。

(カ)は、肝機能を持つ最小の単位であり、これが(キ)個集まって肝臓ができています。また、(カ)は(ク)個の(ケ)でできている。下の図は、(カ)の模式図である。



【解答】第2学期 第25問

ア - 2～3 イ - 肝動脈 ウ - 脾臓 エ - 肝門脈 オ - 肝静脈
カ - 肝小葉 キ - 50万 ク - 50万 ケ - 肝細胞 コ - 肝門脈
サ - 肝動脈 シ - 中心静脈 ス - 小葉間胆管

第26問 2学期 肝臓(その2)

問 肝臓のはたらき(1～8)の空欄(ア～ト)に適する語句を入れよ。

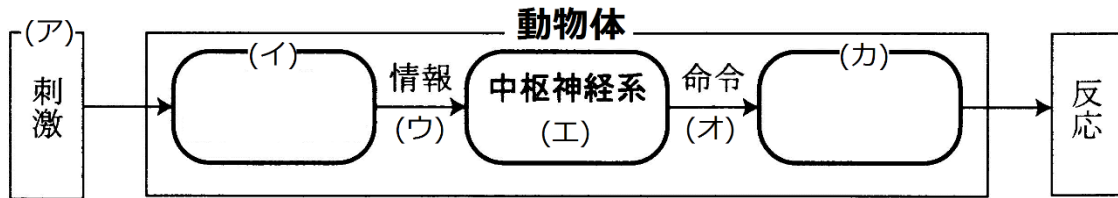
1. 血糖濃度の調節：(ア)を(イ)にして蓄える。このとき、(イ)を(ア)にする反応を促進するホルモンには(ウ)・(エ)、(ア)を(イ)にする反応を促進するホルモンには(オ)がある。
2. タンパク質の合成・分解：(カ)・(キ)、そして(ク)に關与する各種タンパク質を合成し、それらのタンパク質の血液中濃度を一定に保つ。逆に不要なタンパク質を分解している。
3. 尿素の合成：(ケ)によって、(コ)から尿素を合成する。
尿素合成の反応式(サ)
4. 解毒作用：体内で生じた有害物質・体外から侵入した有害物質を無毒な物質、または毒性が弱い物質に変える。
例：(シ)→アセトアルデヒド→酢酸→筋肉で二酸化炭素と水にする。
5. 赤血球の破壊：古くなった赤血球を破壊し、ヘモグロビンを分解して(ス)を合成する。この(ス)は、胆汁の成分となる。また、ヘモグロビンに含まれていた(セ)を貯蔵する。
6. 胆汁の合成：(ソ)から作り出した胆汁酸、(ス)から作り出した胆汁色素と合わせて胆汁を合成する。胆汁は胆のうに蓄えられ、(タ)に分泌される。胆汁は、脂肪をコロイド状に細分化し(=チ)、脂肪分解酵素である(ツ)の作用を助ける。
7. (テ)の維持：さまざまな化学反応が起こっているため、発熱が盛んで肝臓内の血液が温まる。この温まった血液が体内を循環する。
8. 血液の貯蔵：(ト)が発達しているために、血液を貯めこむことができる。

【解答】第2学期 第26問

ア - グルコース イ - グリコーゲン ウ・エ - アドレナリン・グルカゴン
オ - インスリン カ・キ - アルブミン・グロブリン ク - 血液凝固 ケ - 尿素回路
コ - アンモニア サ - $2\text{NH}_3 + \text{CO}_2 \rightarrow \text{CO}(\text{NH}_2)_2 + 2\text{H}_2\text{O}$
シ - エタノール ス - ビリルビン セ - 鉄 ソ - コレステロール タ - 十二指腸
チ - 乳化 ツ - リパーゼ テ - 体温 ト - 毛細血管

第 27 問－1 2 学期 刺激の受容・反応

下の図は、脊椎動物が外界からの様々な情報に対して反応するときの、その情報・刺激・興奮の経路を示した模式図である。これに関する以下の各問(問 1～6)に答えよ。



問 1 図中のアに関して、外界からくる刺激(「光」以外)にはどのようなものがあるか、3 つ以上答えよ。

問 2 図中のイに関して、次の各設問に答えよ。

設問(1) 外界からくる刺激を受け取る組織・器官の総称名を答えよ。

設問(2) 設問(1)で答えた組織・器官の具体例を、例に倣って問 1 の刺激とともに 3 つ以上答えよ。

	刺激	組織・器官
例：	光	網膜

【解答】第 2 学期 第 27 問－1

問 1 音・温度・圧力・におい(化学物質)など

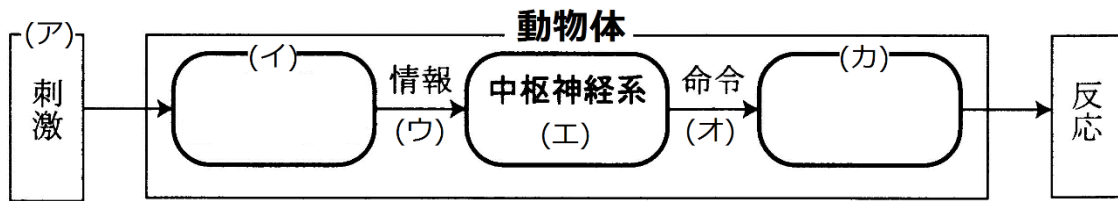
問 2

設問(1) 受容器

設問(2)

	刺激	組織・器官
	音	耳(コルチ器)
	温度	温点・冷点
	圧力	圧点
	化学物質	嗅上皮・味覚芽

第 27 問－2 2 学期 刺激の受容・反応



- 問 3 図中のウに関して、情報を送る組織の名称を答えよ。
- 問 4 図中のエに関して、脊椎動物の場合、中枢神経系を構成する組織または器官の名称を 2 つ答えよ。
- 問 5 図中のオに関して、中枢神経系からの命令を実行する組織・器官の総称名を答えよ。
- 問 6 図中のオ・カに関して、中枢神経系からの命令を実行する組織・器官の具体例を、例に倣って 3 つ以上答えよ。

オ	カ
例： 運動神経	骨格筋

【解答】第 2 学期 第 27 問－2

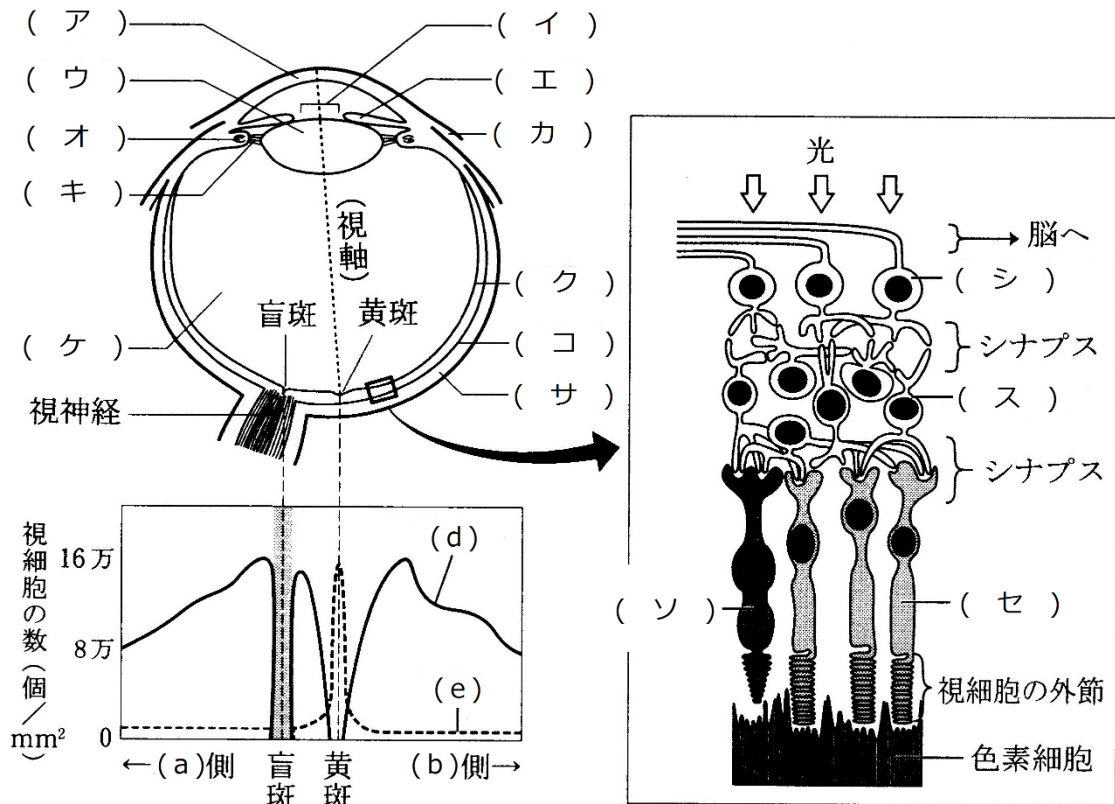
- 問 3 感覚神経 問 4 脳・脊髄 問 5 効果器
- 問 6

オ	カ
自律神経	平滑筋
自律神経	心筋
自律神経	内分泌腺・外分泌腺
ホルモン	内分泌腺

- ☆平滑筋・心筋は自律神経系によって調節される。
- ☆平滑筋には「血管」「器官」「消化管」などの“管”に分布するものや、「立毛筋」・「瞳孔散大筋」・「瞳孔括約筋」などがある。
- ☆内分泌腺はホルモンを分泌するが、ホルモンによって調節される。
- 例：副腎皮質(内分泌腺)は、副腎皮質刺激ホルモンによって調節される。
- ☆内分泌腺はホルモンを分泌するが、自律神経によって調節される。
- 例：副腎髄質(内分泌腺)は、交感神経(自律神経)によって調節される

第28問-1 2学期 「眼」

下の図は、ヒトの眼の水平断面図・網膜の模式図・視細胞の分布を表した図である。これに関する以下の各問いに答えよ。



ヒトの(c)眼の構造(上)と視細胞の分布(下)

ヒトの網膜の構造

問1 図中の空欄(ア～ソ)に適する語句を入れよ。

問2 上の水平断面図が、人を上方から見たものであるとすれば、(a)・(b)はそれぞれ「鼻」側・「耳」側のどちら側か。また、下方から見たものであるとすれば、(a)・(b)はそれぞれ「鼻」側・「耳」側のどちら側か。

【解答】第2学期 第28問-1

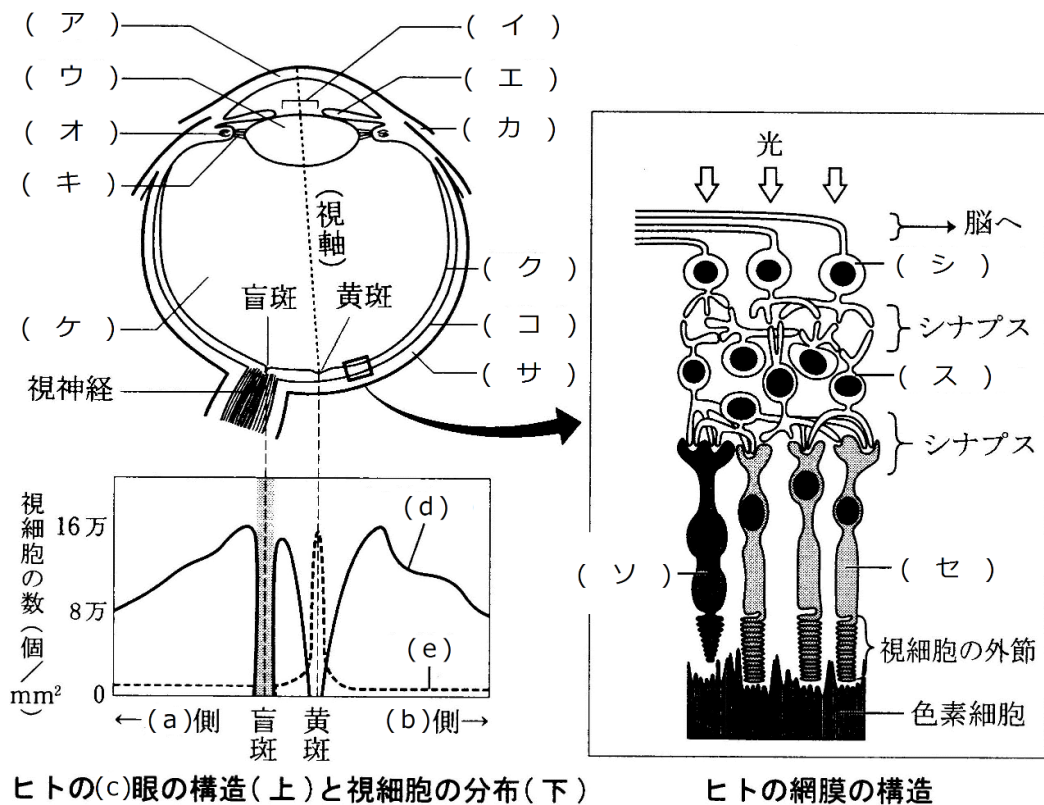
問1 ア-角膜 イ-瞳孔 ウ-水晶体 エ-虹彩 オ-毛様体

カ-結膜 キ-チン小帯 ク-網膜 ケ-ガラス体 コ-脈絡膜

サ-強膜 シ-視神経細胞 ス-連絡細胞 セ-桿体細胞 ソ-錐体細胞

問2 上方から見た場合・・・(a)鼻 (b)耳 下方から見た場合・・・(a)鼻 (b)耳

第 28 問-2 2 学期 「眼」



問 3 上の水平断面図が、人を上方から見たものであるとすれば、(c)は「右」と「左」のどちらか。また、下方から見たものであるとすれば、(c)は「右」と「左」のどちらか。

問 4 視細胞の分布を表した図中の(d)・(e)は、網膜の模式図中の(ソ)・(セ)のそれぞれどちらか。

問 5 上の網膜の図中の「色素細胞」の役割を述べよ(25字程度)。

【解答】第 2 学期 第 28 問-1

問 3 上方から見た場合・・・右 下方から見た場合・・・左

問 4 (d)→(ソ) (e)→(セ)

問 5 視細胞をすり抜けた光が乱反射しないように吸収する。

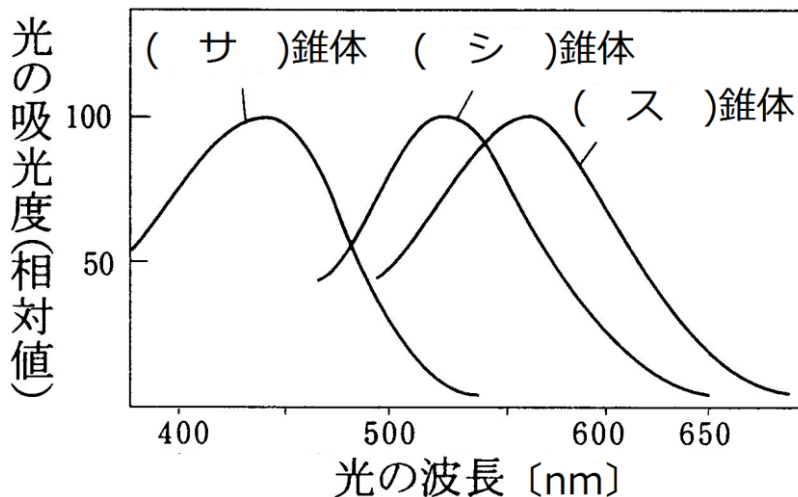
第 29 問 2 学期 視細胞

問 下の図を参考にして、次の文章中の空欄(ア～チ)に適する語句・数値を入れよ。

脊椎動物門(魚綱・両生綱・爬虫綱・鳥綱)は、基本的に(ア)・青・緑・赤を受容できる4色型色覚である。しかし、哺乳綱は(イ)色型色覚である。これは、哺乳綱が誕生した時代には爬虫綱が繁栄(恐竜など)しており、哺乳綱はそれらの捕食を免れるため、または競争的排除によって、(ウ)のみ行動することを強いられたからと考えられる。つまり、視細胞のいくつかが退化したのである。ところが、今から(エ)年前、隕石の衝突によって恐竜などが絶滅すると哺乳綱の時代となる。哺乳綱のうち、(オ)で生活する(カ)目は、果実が熟しているかどうかを見分けるために(キ)色を受容できるようになり、これによって(ク)色型色覚となったようである。

ヒトが受容できる光の領域は(ケ)nm～(コ)nmで、この範囲を可視光線という。ヒトが世界をカラーで認識するのは、光の3原色を受容する(サ)錐体・(シ)錐体・(ス)錐体の3種類の錐体細胞を持つからである。また、錐体細胞とは別に桿体細胞も存在し、この細胞は500nm付近に吸収のピークがあり、これは色でいうと(セ)色の付近である。なお、桿体細胞と錐体細胞では、前者の方が閾値が(ソ)い。

なお昆虫は、ヒトと比べると短波長領域側にずれており、(タ)を受容できるが、(チ)色を受容できない。



【解答】第2学期 第29問

ア - 紫外線 イ - 2 ウ - 夜間 エ - 6600万年 オ - 樹上
 カ - 霊長 キ - 赤 ク - 3 ケ - 380 コ - 700
 サ - 青 シ - 緑 ス - 赤 セ - 青緑 ソ - 低 タ - 紫外線 チ - 赤

第30問 2学期 ピント・明暗調節

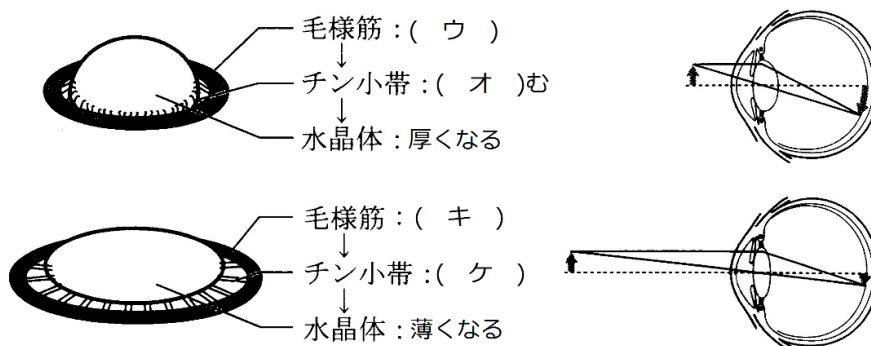
問1 下の図を参考にして、次の文章中の空欄(ア～サ)に適する語句を入れよ。

水晶体は細胞成分に(ア)というタンパク質が含まれており、(イ)がある。眼球におさまっているときには引き伸ばされ薄くなっているが、この引き伸ばしがなければ(イ)によって縮んで厚くなる。

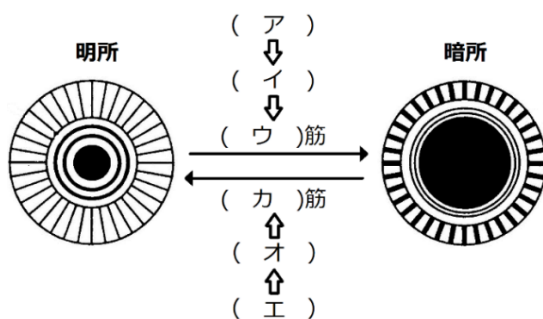
毛様体を構成する筋肉である毛様体筋が(ウ)すると、毛様体で構成される輪が(エ)くなる。すると水晶体が引っ張られなくなり、チン小帯は(オ)み、水晶体は自らの(イ)で縮んで厚くなる。このとき(カ)くにピントが合う。

毛様体を構成する筋肉である毛様体筋が(キ)すると、毛様体で構成される輪が(ク)くなる。するとチン小帯は(ケ)し、このため水晶体が引っ張られて薄くなる。このとき(コ)くにピントが合う。

水晶体を構成するタンパク質が劣化し、水晶体の(イ)がなくなってくると、(ク)くにピントが合わなくなる。これを(サ)という。



問2 次の図の空欄(ア～カ)に神経・神経伝達物質・筋肉の名称を入れよ。



【解答】第2学期 第30問

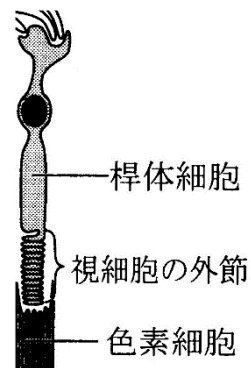
- 問1 ア - クリスタリン イ - 弾力 ウ - 収縮 エ - 小 オ - 緩
 カ - 近 キ - 弛緩 ク - 大 ケ - 緊張 コ - 遠 サ - 老眼
- 問2 ア - 交感神経 イ - ノルアドレナリン ウ - 瞳孔散大 エ - 副交感神経
 オ - アセチルコリン カ - 瞳孔括約

第 31 問 2 学期

問 1 次の文章中の空欄(ア～オ)に適する語句を入れよ。

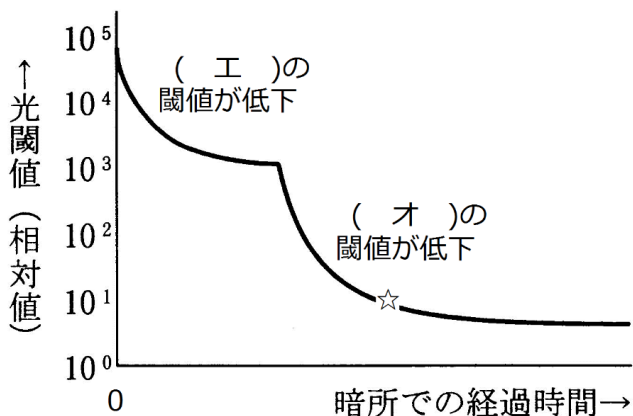
桿体細胞の外節部分には光受容物質である(ア)が存在するが、(ア)は、タンパク質である(イ)と、そして(ウ)で構成されている。光を受容すると、(ウ)の構造が変化して、(イ)から離れ、これがきっかけとなって桿体細胞が興奮する。なお、(ウ)の前駆物質は(エ)であり、これが不足すると、(オ)となる。

ちなみに、錐体細胞の光受容物質は、フォトプシンであり、やはり(イ)と(ウ)で構成されている。



問 2 下の図を参考にして、次の文章の空欄(ア～キ)の適する語句・数値を入れよ。

暗所に入ると、最初はよく見えないが次第に見えるようになってくるが、これを(ア)という。暗所では光受容物質である(イ)が増加するために(ア)という現象が起こる。明るいところへ出ると、暗い所で増加していた(ア)が一気に分解されるためにまぶしく感じるが、すぐによく見えるようになる。これを(ウ)という。下の図は、(ア)の様子を示した図である。最初は(エ)の閾値が、続いて(オ)の閾値が低下していくのがわかる。横軸の☆の時点での閾値は、暗所に入った時点の閾値の(カ)になっている。つまり光に関する感度は(キ)倍になっているのである。



【解答】第 2 学期 第 31 問

問 1 ア - ロドプシン イ - オプシン ウ - レチナール エ - ビタミン A オ - 夜盲症

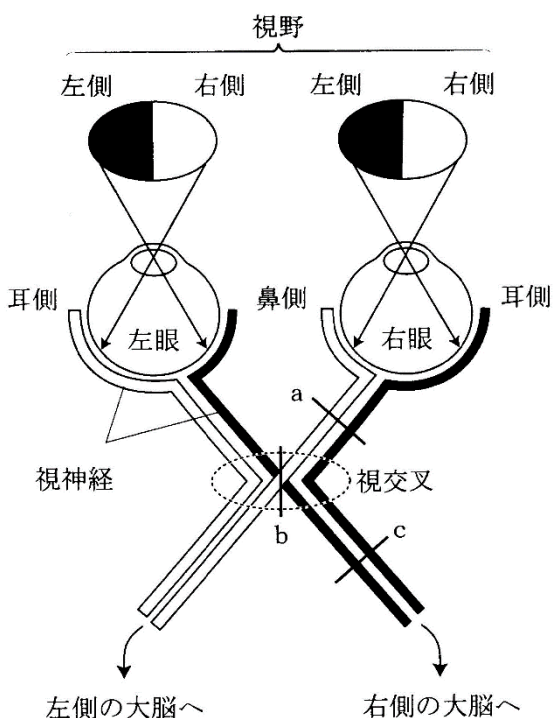
問 2 ア - 暗順応 イ - ロドプシン ウ - 明順応 エ - 錐体細胞 オ - 桿体細胞

カ - 1 万分の 1 ($\leftarrow 10^1 \div 10^5$) キ - 1 万

第 32 問 2 学期

問 1 右下の図を参考にして、文章中の空欄(ア～チ)に適する語句を入れよ。

左眼の左側の網膜から出る視神経は (ア) 脳の視覚中枢へ、左眼の右側の網膜から出る視神経は (イ) 脳の視覚中枢へ到達する。一方、右眼の左側の網膜から出る視神経は (ウ) 脳の視覚中枢へ、右眼の右側の網膜から出る視神経は (エ) 脳の視覚中枢へ到達する。つまり、(ア) 側の景色 (= (ア) 視野) は (イ) が、(イ) 側の景色 (= (イ) 視野) は (ア) が司る。このような視交叉を特に (オ) という。仮に、図の a で視神経が切断されると、(カ) 眼の (キ) 視野・(ク) 眼の (ケ) 視野を失う。また b で切断されると、(コ) 眼の (サ) 視野・(シ) 眼の (ス) 視野を失い、c で切断されれば (セ) 眼の (ソ) 視野・(タ) 眼の (チ) 視野を失う。



問 2 次の異常視(1～5)の現象を下の①～⑥のうちからそれぞれ1つずつ選べ。また、1～4については、補正法を下の⑦～⑨のうちからそれぞれ1つずつ選べ。

1. 近視 2. 遠視 3. 乱視 4. 老眼 5. 色覚異常

- ① 錐体細胞の異常 ② 桿体細胞の異常 ③ 角膜の表面に凹凸が生じた。
 ④ 水晶体の弾力が減退。 ⑤ 網膜の後方に結像。 ⑥ 網膜の前方に結像。
 ⑦ 凸レンズで補正。 ⑧ 凹レンズで補正。 ⑨ 曲面を補正するレンズ。

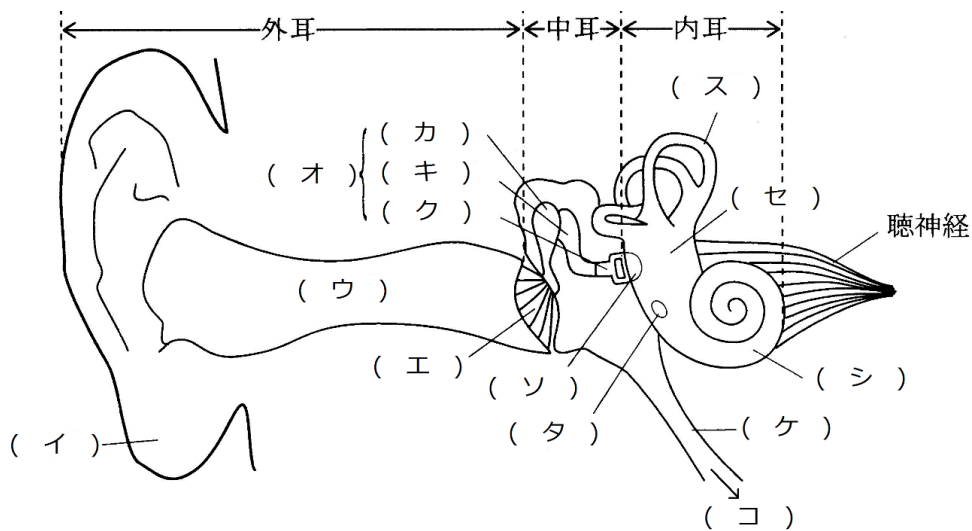
【解答】第 2 学期 第 32 問

- 問 1 ア - 左 イ - 右 ウ - 左 エ - 右 オ - 半交叉
 カ - 右 キ - 右(左) ク - 右 ケ - 左(右) コ - 左 サ - 左
 シ - 右 ス - 右 (コ - 右 サ - 右 シ - 左 ス - 左) セ - 左
 ソ - 左 タ - 右 チ - 左 (セ - 右 ソ - 左 タ - 左 チ - 左)
- 問 2 1 - ⑥⑧ 2 - ⑤⑦ 3 - ③⑨ 4 - ④⑦ 5 - ①

第33問 2学期 ヒトの耳

問1 下の図を参考にして、次の文章中の空欄(ア～タ)に適する語句を入れよ。

哺乳綱の耳は、外耳・中耳・内耳からなる。外耳と中耳は、魚綱の時代には(ア)の一部分であったものが変化して生じた。このため、魚綱には外耳・中耳は存在しない。また、両生綱・爬虫綱には外耳がない。外耳は(イ)と(ウ)からなり、(エ)が外耳と中耳の境目である。中耳は、空洞であり、そこに(カ)・(キ)・(ク)からなる(オ)が存在する。また、この空洞からは(ケ)が伸び、(コ)に達している。この管は、普段は閉じているが、外気と中耳内の気体の(サ)を合わせるために重要である。内耳は、音を受容する部分である(シ)・体の回転を受容する(ス)・体の傾きを受容する(セ)からなる。また、(シ)には(ソ)・(タ)と呼ばれる薄い膜がある。



【解答】第2学期 第33問

ア-エラ イ-耳殻 ウ-外耳道 エ-鼓膜 オ-耳小骨 カ-つち骨
 キ-きぬた骨 ク-あぶみ骨 ケ-耳管(=エウスタキオ管=ユースタキ管) コ-咽頭
 サ-気圧(圧力) シ-うずまき管 ス-半規管 セ-前庭 ソ-卵円窓 タ-正円窓

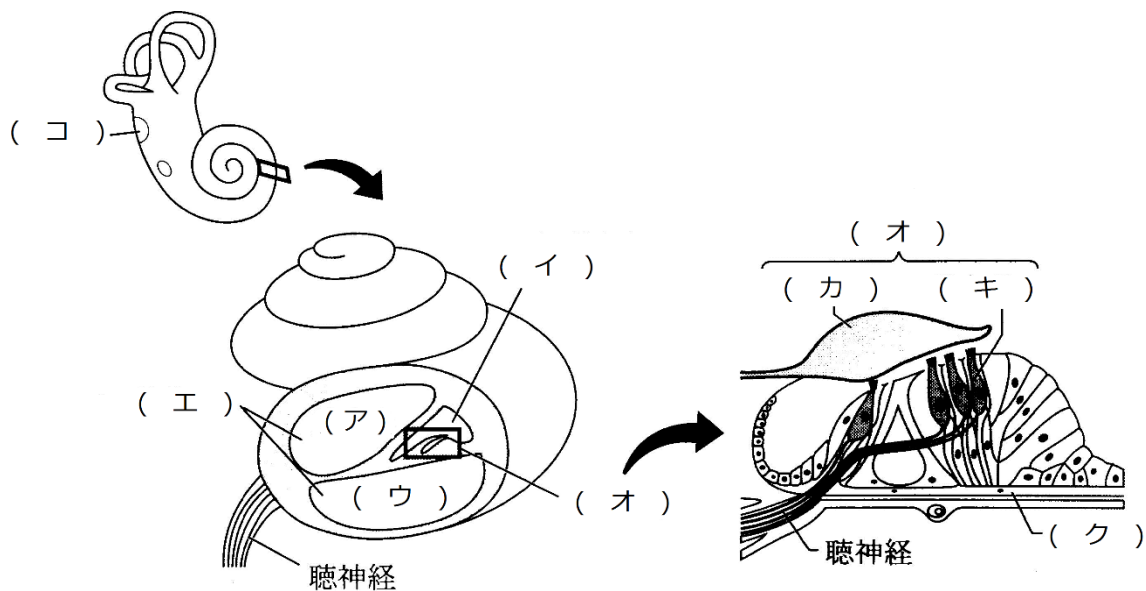
第 34 問 2 学期 聴覚の成立

問 下の図を参考にして、次の文章中の空欄(ア～コ)に適する語句を入れよ。

うずまき管の断面図を見るとわかるとおり、(ア)・(イ)・(ウ)という3つの管がある。(ア)と(ウ)はうずまき管の頂点部分でつながっており、すなわち1本の管になっている。(イ)はうずまき管の頂点部分で行き止まりになっている。なお、これらの管は(エ)で満たされている。

(イ)を拡大してみると、ここには(オ)があるのがわかる。これが音の受容体で、(カ)と(キ)からなる。(オ)の床の部分は(ク)と呼ばれる。

音は空気の振動であり、これが鼓膜を振動させる。鼓膜の振動は(ケ)によって増幅され、(コ)を振動させる。なお、鼓膜の面積:(コ)の面積=20:1であるため、これによっても振動が増幅される。(コ)が振動すれば、内部の(エ)が振動するため、(ク)も振動する。すると、(オ)も振動し、(キ)の感覚毛が(カ)に押し付けられて曲がる。これによって(キ)が興奮し、これを聴神経が脳の聴覚中枢に送り届ける。



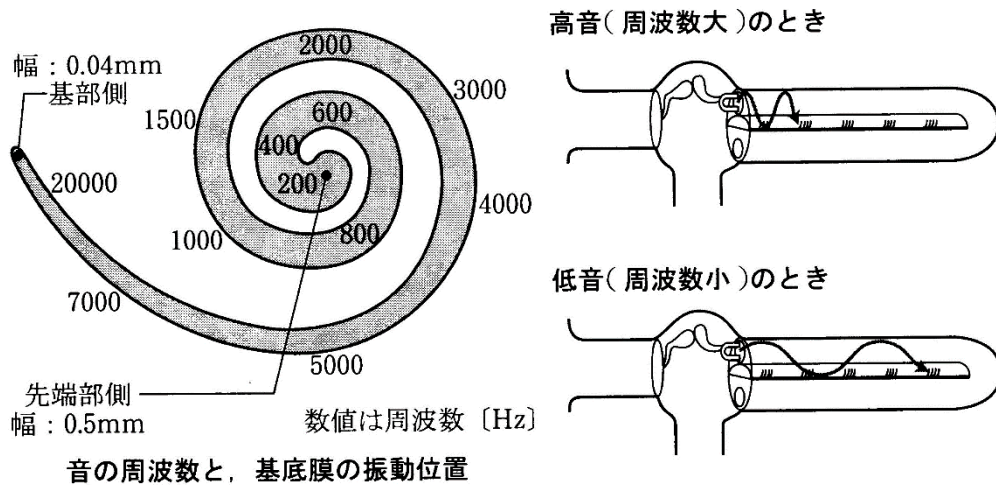
【解答】第2学期 第34問

ア - 前庭階 イ - うずまき細管 ウ - 鼓室階 エ - リンパ液 オ - コルチ器
 カ - おおい膜 キ - 聴細胞 ク - 基底膜 ケ - 耳小骨 コ - 卵円窓

第 35 問 2 学期 基底膜

問 右の図を参考にして、次の文章中の空欄(ア～コ)に適する語句・数値を入れよ。

基底膜は、基部側から先端部に向かうにしたがって幅が(ア)くなっていくとともに、より(イ)音を受容するようになっている。また、低音を受容する聴細胞の感覚毛は(ウ)く(エ)いが、高音を受容する聴細胞の感覚毛は(オ)く(カ)い。なお、ヒトが受容できる音の範囲は(キ)Hz～(ク)Hzであり、(キ)より低い音は(ケ)、(ク)より高い音は(コ)と呼ばれる。



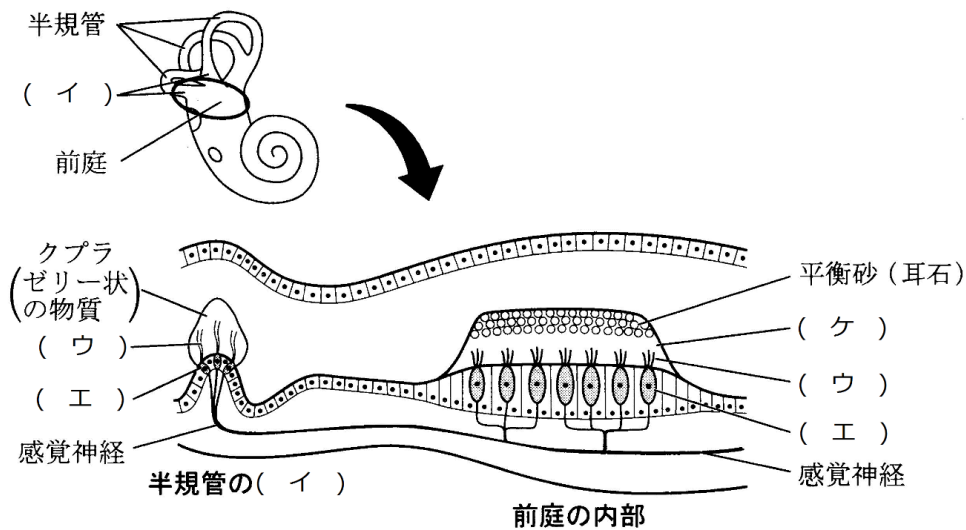
【解答】第 2 学期 第 35 問

ア - 広 イ - 高 ウ - 長 エ - 柔らか オ - 短か
カ - 硬 キ - 20 ク - 20000 ケ - 低周波 コ - 超音波

第 36 問－1 2 学期 平衡覚・嗅覚・味覚・皮膚感覚

問 1 下図を参考にして、次の文章中の空欄(ア～ケ)に適する語句を入れよ。

半規管・前庭内は(ア)で満たされている。半規管の(イ)の部分には(ウ)を伴った(エ)が存在し、(ア)の流れによって(ウ)が曲がる。これによってからだの回転を受容することができる。半規管は3本あり、それぞれが互いに(オ)になるように位置している。これにより、(カ)方向の回転・(キ)方向の回転・(ク)に沿った回転、つまりどの方向の回転であっても受容できるようになっている。また、前庭にも(ウ)を伴った(エ)が存在し、この細胞の上に(ケ)を含んだゼリー状の物質がのっている。体が傾くと、このゼリー状の物質が重みで移動し、(ウ)が曲がる。これによって体の傾きを受容することができる。なお、



【解答】第 2 学期 第 36 問－1

問 1

ア - リンパ液 イ - びん ウ - 感覚毛 エ - 感覚細胞 オ - 直角
 カ・キ - 前後・左右 ク - 体軸 ケ - 平衡砂(耳石) コ -

第 36 問－ 2 2 学期 平衡覚・嗅覚・味覚・皮膚感覚

問 2 次の感覚(1～3)の受容器の名称をそれぞれ答えよ。また、1・2は、受容細胞・感覚神経の名称も答えよ。

	受容器	受容細胞	感覚神経
1. 嗅覚			
2. 味覚			
3. 皮膚感覚		—	—

【解答】第 2 学期 第 36 問－ 1

問 2

	受容器	受容細胞	感覚神経
1. 嗅覚	嗅上皮	嗅細胞	嗅神経
2. 味覚	味覚芽	味細胞	味神経
3. 皮膚感覚	温点・冷点・圧点・痛点	—	—